



Association

日本グランドバレーボール協会



Japan Grand Volleyball

2007年版（初版）  
公式ルールブック

## コートとネット

### コート

#### 【一般】

コートは18×9mの長方形。両サイドは、最小限3m幅のフリーゾーンで囲まれる。1チームのコートは9m四方の正方形で、その前方3mがフロントゾーンとなる。

支柱はバレーボール用の支柱を用いる。

#### 【小学生】

バドミントンコートを使用する。

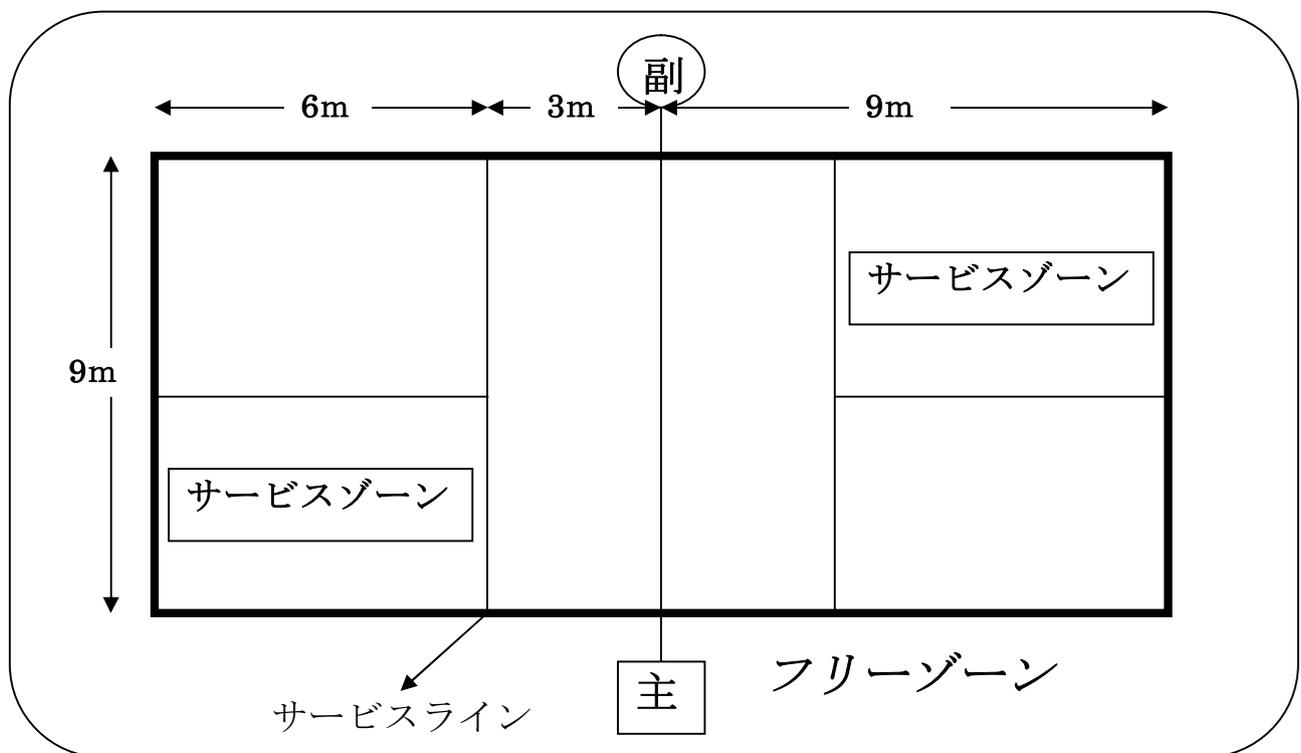
支柱はバドミントン用の支柱に補助ポールを取り付ける。

### ネット

ネットはセンターライン上に垂直に設置され、高さは、以下のように規定されている。アンテナは使用しない。

【一般】 2.00m 幅1mのバレーボール用ネットを用いる。

【小学生】 1.80m バドミントン用ネットを使用する



### ボール

ボールはJGVAオフィシャル球【日本グランドバレーボール協会認定】を使用する。厳密な大きさおよび空気圧は規定しない。

### チーム

チームについては基本的に一般混成チーム、女子チーム、小学生チームとする。その他その場に応じたチームを編成することも可能とする。

### 【混成チーム】

1. チームは一般男女混合チーム6名（男3名、女3名）とする。但し男子の代わりに女子を入れることができる
2. ゲームにおいては4名以上で（男3人以下）で成立とする。
3. 一般男女とは中卒以上で学生を除くすべての人を指すものとする。
4. 1チームは11名までとする。

### 【女子チーム】

1. チームは一般女子チーム6名とする。
2. ゲームにおいては4名以上で成立とする。
3. 1チームは11名までとする。

### 【小学生チーム】

1. 一般混成チームに順ずる

## 試合の準備と進行

1. ボールまたはコートを選択  
主審は両チームのキャプテン立会いの下にジャンケンを行なう。ジャンケンに勝ったチームのキャプテンは、サービス権またはコートのいずれか1つを選ぶことができる。
2. 競技者の位置とローテーション
  - ① サービスが打たれる瞬間には各自のコート内に位置指定なければならない。
  - ② サービスが行なわれた後はどのように移動してもよい。
  - ③ ローテーションは、サービスをレシーブする側がサービス権を得た時点で時計回りに1つずつ位置を移動する。またローテーションミス《ポジショナル・フォールト》は、反則となり相手チームに1ポイント加算される。
3. 競技中断の要求
  - ① 作戦タイムは、1セットにつき1回30秒以内とする。
  - ② 各セットの選手交代は5人までとする。ただし同一セットに同一人の交代は認めない。
  - ③ 競技者の交代の要求はボールがデッドのとき、サービス許可の吹笛前に主審もしくは副審にその旨を告げる。

## コートとの交換

- 1 セット終了時にはコートを交換しなければならない

## ラリーポイント制とサービス権

ラリーポイント制とは、サービス権のあるなしに係らず、ポイントになるシステム。

- ・ 相手側のコート内にボールが落ちたとき
- ・ 相手が反則を犯したとき
- ・ 相手のボールがコートの外に落ちたとき
- ・ 相手のボールがコート以外の物体や天井に触れたとき

上記のときに1ポイントが自分のチームに入る。

サービス権はポイントを得たチームが持つ。相手側にポイントを奪われたとき、サービス権も相手に渡る。

## セットの勝敗

- 【混成】 1つのセットの勝ちには12ポイント先取したチームが得る。デュースはなし。  
3セット目は7ポイント先取した方が勝者となる
- 【女子】 1つのセットの勝ちには12ポイント先取、または12分間で得点の多い方を勝者とする。同点の場合は、ジャンケンによりサーブ権を決め先に得点を獲得した側を勝者とする。  
3セット目は7ポイント先取または7分間ゲームを行い同点の場合は上記と同様とする。

## セットの没収

- 1) 負傷などで競技者が正規にも、例外的にも4人未満となり、試合が成立しない場合にはそのチームは失格となり、そのセット(またはその試合)は没収される。
- 2) 試合中、主審又は副審だけでなく他の役員、相手チーム、チームメイトおよび観客に対しても非スポーツマン的な態度、発言(やじ等)はいかなる場合も認めない。その場合警告抜きでの没収試合もありえる。

## 試合の勝敗

【混成・女子】 3セットマッチで先に2セット先取したチームが勝者となる。

## プレーのルール

### サービス (Service)

サービスゾーン内からフロントライトのプレーヤーが両手でボールを持ち相手コート内にボールを投げ入れ、インプレーする行為である。

### セット最初のサーブ

第1セットの最初のサービスはジャンケンの結果サービス権を得たチームが行なう。  
第2セットの最初のサービスは、第1セットで最初にサービスを行なわなかったチームが行なう。

### サービスの実行

- 3) サービスは1回とする。
- 4) サーバーは主審のサービス吹笛後、速やかにサービスを行なわなければならない。主審の吹笛以前に行なわれたサービスは向こうとなりやり直される。
- 5) ボールがネットに接触した場合もプレーは続行される。
- 6) サービスラインを踏んだ場合、またはサイドライン、センターラインを踏んだ場合又は超えた場合、反則となる。
- 7) ジャンプサーブは認めるがその場合もボールをつかんではいならない。(必ず両手で持つ。)

## ボールプレイ (Ball Play)

### ボールへの接触

- 1) チームは返球時、1回しかボールに触れずに相手コートにボールが帰ってしまった場合は反則となる。(ショート・ヒット)
- 2) ボールの返球に関しては2回以上5回以内とする。(6回の接触は反則となる シックス・ヒット)

- 3) 競技者は連続して2回ボールに触れることは出来ない。ただし、ネット又は支柱に当たり跳ね返ったボールの場合、同一人が5回以内でボールに接触することが出来る。
- 4) 同一チームの競技者が数人同時にボールに接触した場合、いずれの競技者も引き続いてボールに接触することが出来る。同時に数人触れた場合も回数は1回とカウントする。
- 5) ボールは体のどの部分に触れても良い。
- 6) ボールはヒット【打つ】しなければならない。つかんだり、サーブ以外で投げたりしてはいけない。

## ネットプレー (Net Play)

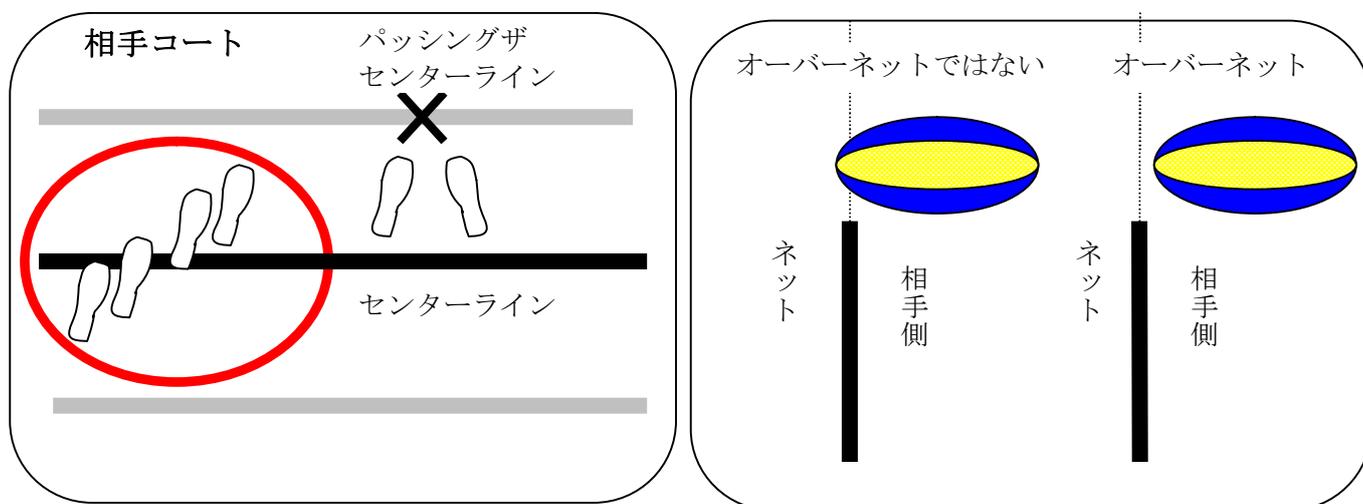
ボールは両サイドのボールの内側を通して相手コートに送らなければならない。ボールはネットに触れても良く、ネットに打ち込んだ場合も5タッチ以内ならプレーを続けることが出来る。

### ネットへの接触

プレーヤーがボールをプレーしている時ネットへの接触は反則になる。ただし相手の打ったボールの勢いで膨らんだネットに触れても反則にはならない。

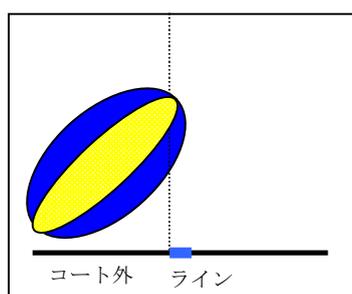
### ネット近くのプレーでの反則

- ・ 相手コート側のボールにネットを越えてタッチした場合 (オーバーネット)。
- ・ プレー中に体がネットやポールに触れた場合 (タッチネット)
- ・ 両足又は両手が完全にセンターラインを超えて相手コートに触れた場合 (パッシングセンターライン)
- ・ ネット上下から出した手足で、相手のプレーを妨害した場合



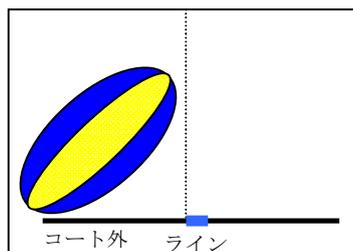
## ボール・イン

ボールが床面に接触したとき、コート区画線 (ラインの外側) を垂直方向に伸ばした想像延長線上にボールの一部がかかっているとき、そのボールはインとなる。



## ボール・アウト

ボールが床面に接触したとき、コート区画線（ラインの外側）を垂直方向に伸ばした想像延長線上にボールの一部がかかっていないとき、そのボールはアウトとなる。



## プレー上の反則

次にあげるプレーは反則となる。

- ① チームが、サービス順を誤ってサービスを行なったとき。（ポジショナル・フォールト）
- ② サービス・ゾーンの外で、サービスを行なったとき。（フット・フォールト）
- ③ サービスが打たれた瞬間に、両チームの各競技者が、コート内で正しいポジションに位置していなかったとき。（ポジショナル・フォールト）
- ④ サービスされたボールが相手競技者に触れずにボール・アウトになったとき。
- ⑤ ボールに 2 回以上触れずに相手コートに返してしまったとき。（ショート・ヒット）
- ⑥ ボール接触中明らかにボールがとまるようなプレーがあったとき。（キャッチ・ボール）
- ⑦ 同一競技者が明らかに 2 度続けてボールに触れたとき。（ダブル・コンタクト）
- ⑧ インプレー中にネットに触れたとき。（タッチ・ネット） 但し、ボールをプレーしようとしていないときに偶然に触れた場合は反則にならない。
- ⑨ ボールと体の接触点がネットによって分けられた相手コート上内にあるとき。（オーバーネット）
- ⑩ 両チームの競技者が同時に反則を犯したとき。（ダブル・コンタクト）
- ⑪ インプレー中にボールに 6 回目触れたとき。（シックス・ヒット）

## その他の反則 (Foul)

不法な行為とその罰則

相手チームや審判、観衆に対する不法な行為は、その程度によって以下のように分けられ、罰則が科せられる。

審判の判定に異議があるときは、キャプテンを通して説明を求めることしか認められていない。

- ① 無作法の行為：礼儀作法、道徳に反した行為や軽蔑する態度をとった場合
- ② 屈辱的な行為：中傷的、屈辱的な言葉やジェスチャーを取った場合
- ③ 暴力的な行為：身体への攻撃を行なった場合

具体的には以下のような行動をさす。

- ・ 審判に抗議をした。
- ・ ボールを投げつけた（ボールを相手に渡すときはネットの下から転がして渡さなくてはいけない）。
- ・ 相手をやじった。

為 無 作 法 な 行	1 回目の警告	黄色	反則	相手に 1 点を与える
	2 回目の警告	赤色	退場	そのセットの間ペナルティエリア内のイスに座らせる
	3 回目の警告	黄、赤の両方	失格	競技統制区域から退去させる
な 侮 辱 的 行 為	1 回目の警告	赤色	退場	そのセットの間ペナルティエリア内のイスに座らせる
	2 回目の警告	黄、赤の両方	失格	競技統制区域から退去させる
な 暴 力 的 行 為	1 回目の警告	黄、赤の両方	失格	競技統制区域から退去させる